



学童だより

令和2年 6月23日
No.5
富岡児童クラブ

あじさいの花がきれいな季節を迎え、日々色づいていく花を見て心を和ませています。雨の日の下校は「大丈夫だろうか」と保育園から首を伸ばして、見守っています。あまりに雨がひどい時には、園バスで迎えに行くことも検討しています。

暑くなったり、肌寒くなったり、体調を整えるのが難しい季節但也有りますが、気を付けて過ごしたいですね。

まだまだ、新型コロナウイルスへの心配は尽きませんが、子ども達の笑顔が毎日見られることがなによりです。学校での学びを活かして、学童でも元気に楽しく過ごしていきたいです。



ちょうちょがうまれたよ

富小の1年生がツマグロヒョウモンの幼虫を捕まえてきていました。牛乳パックを切り開いて、葉っぱを入れてお世話をしていた湘之介君の幼虫が10日にさなぎになっていました。さなぎになったことに大喜びだった湘之介君「俺、初めてさなぎになった」と感動していました。それから、どのくらいで蝶になるか図鑑で調べてみると9日ほど書いてあり、18日ごろには生まれるのかなと楽しみにしていました。

ところが、途中でさなぎが木の枝から落ちていました。こうなると、生まれる時に羽が縮れてしまい、うまく生まれてくるのかなと心配していました。予定の18日を過ぎても何の変化もありません。やっぱりだめだったのかなあと思いつつ、そのまま様子を観ていると、20日の土曜日のお昼頃、なんとちょうちょが牛乳パックの箱にとまっています。しかも2匹共です。感激して子ども達に「ちょうちょが生まれてるよ」と教えると「えー見せて」と集まってきました。肝心の湘之介君はお休みだったので、誰かが「湘之介君に教えてやらんばね」と言っていました。

その後、ちょうちょはまだうまく飛べないので、蓮叶君があじさいの花にとまらせてあげたり、別のお花にとまらせたりと、ずっと心配そうに見守ってくれていました。

そのうち、2匹とも飛び立っていったようですが、命の誕生に出会えて本当に感激でした。

保育園のお約束カレンダーに「虫やお花も生きている」という言葉があり、子ども達はこれをお約束をしっかり覚えていて、誰かが虫の命を粗末にするようなことをしたら、この言葉を言って注意していることもあります。命の誕生は、人でも虫でもお花でも、嬉しいものだなあと、改めて感じたところです。

今でも毎日のように誰かがバツヤやカマキリ、ハナムグリなどの昆虫を捕まえて「牛乳パック頂戴！」と言ってきます。昨日は、角岡大貴くんがカナヘビを腕にはわせて持ってきました。宿題やおやつの際は牛乳パックに入れていましたが、おうちに帰るときはちゃんと持ち帰っています。お迎えに来られたお母さんが「いつまで虫探しが続くでしょうね。休日にもずっと虫を探しています。」と言われていました。

何かの本に、「小さいときに何かに夢中になれるものがあるということは素晴らしい」とありました。子どもたちの興味・関心・好奇心と一緒に見守っていきたいです。



父の日のプレゼントです。

おとうさん ありがとう

父の日のプレゼント作りをしました。メッセージカードはお父さんへの思いがあふれており、ほほえましく思いました。ネクタイ付きのハートの折り紙も、子ども達が頑張って折り、飾りつけも工夫していました。子ども達のお手紙を一部紹介します。

- ・パパおしごとがんばってね。 志岐小1年 山口かなた
- ・パパいつもおしごとがんばってね。富岡小1年 角田にこ
- ・ぱぱいつもしゅくだいおしえてくれてありがとう。おしごとがんばってね。ばすけっとつれていって来てありがとう。 富岡小1年 岡野みゆな
- ・パパへ おしごとがんばって！いつもおこらせてるから、たんじょうびにはいっぱいわらってね。おうえんしているよ。 富岡小2年 濱崎たくと
- ・パパへ いつもおしごとをがんばってくれてありがとう。これからもおしごとがんばってね。カラテをつれていくのをがんばってね。おしごとにいくのはとおいけど、がんばってね。ぼくもがんばります。 富岡小2年 野島せいち
- ・おとうさんへ くま本ではたらいてたいへんだけど、がんばってね。ぼくも学校がんばるけんね。 志岐小3年 山崎はるひ

おはなしだいすき！

この頃、学校から帰ってくるなり「先生これ借りてきたから、後で読んでね」と絵本を持ってくる子どもが多いです。保育園の時から先生にいろんな本を読んでもらった経験のある子は絵本の楽しさを十分味わっています。だから「先生、保育園と同じ本があったよ」「ヨシタケシンスケさんの違う本もあったよ」と図書室にあるたくさんの本の中から自分のお気に入りの本を探して借りてくるのです。中には、分厚い昆虫や恐竜に関する図鑑を借りてきて虫について調べています。子どもの「知りたい。調べたい」という欲求の現れです。

私たちもできるだけ子どもたちの要求にこたえて借りてきた本を読むように心がけています。

学童にもいろんなジャンルの本がたくさんそろっています。

本が好きということは、子どもたちの学力にも大いに関係があります。国語だけでなくすべての学習の基礎になるのです。このまま「本好きの人」でいてほしいと願っています。

そこで、保護者の皆様をお願いします。小学生になったから、文字が読めるようになったからと言って、せっかく子どもが喜んで借りてきたお気に入りの本を「自分で読みなさい」と言わないでください。下記に子どもが本を好きでいられるための文章がありましたのでご紹介します。

小学生になったからといって「ひとりで絵本を読ませなきゃ」とは思わないでください。小学校ではひらがなの読み書きも習い、音読もできるようになります。しかし、低学年の子どもたちにとって文字を自分で追い、意味をとりながら想像力を自由に膨らませるのは、まだまだ難しいことです。そんなときに急に「もう一人で読めるでしょ」と言われてしまうことは、子どもたちの楽しく幸せな空想の時間を奪ってしまうことになります。一人で文字が読めることの自信を高めつつも、読みみかせは、これまでと同じように親子で楽しむ。この両輪はとても大切です。福音館書店「低学年の子どもにおすすめのほん」から一部抜粋